

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 50人

② 算数 50人

5 留意事項

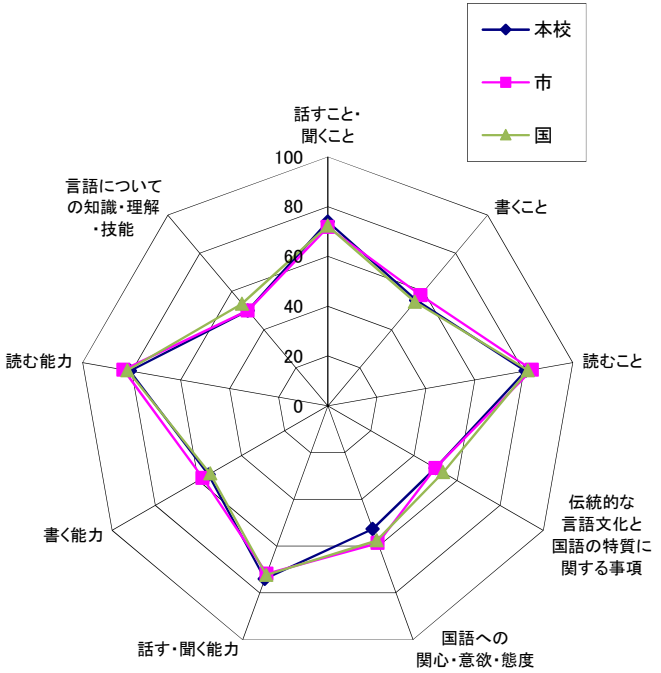
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.0	71.8	72.3
	書くこと	55.3	58.0	54.5
	読むこと	80.7	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	50.0	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	52.7	58.7	57.6
	話す・聞く能力	74.0	71.8	72.3
	書く能力	55.3	58.0	54.5
	読む能力	80.7	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	50.0	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

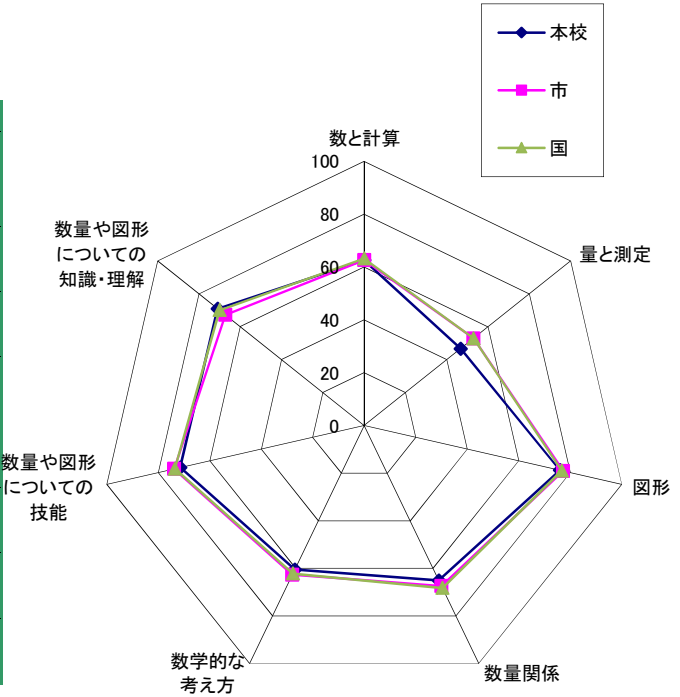
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○目的に応じて、質問を工夫する問題の本校正答率は、74.0%であり、全国及び県の平均との比較でどちらも6.6ポイント高い。 ●目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題の本校正答率は、14.0%であり、全国の平均との比較で5.3ポイント、県の平均との比較では5.2ポイント低い。	・問題解決に向けて話し合うために、互いの立場や意図をはっきりさせながら、司会の進行に沿って計画的に話し合うように指導する。 ・意見と理由とのつながりを聞き取るために、話し手の述べた理由が意見に対して適切なものであるかを考えながら聞き、自分の意見と比べられるように指導する。
書くこと	○情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える問題の本校正答率は76.0%であり、全国の平均との比較で12.6ポイント、県の平均との比較では10.3ポイント高い。 ●目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題の本校正答率は14.0%であり、全国の平均との比較で14.8ポイント、県の平均との比較では16.5ポイント低い。	・自分の感じたことや考えたことを文章に表現するために、文章全体の構成を考え、整理した構成メモを活用して、書くことができるように指導する。 ・目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして詳しく書くことができるように指導する。 ・説得力のある文章を書くために、自分の考えが読み手に伝わるように、構成を工夫し、理由を明確にして文章を書くことができるように指導する。
読むこと	○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む問題の本校正答率は、82.0%であり、全国の平均との比較で1.3ポイント、県の平均との比較では1.5ポイント高い。 ●目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む問題の本校正答率は、88.0%であり、全国の平均との比較で0.5ポイント、県の平均との比較では1.5ポイント低い。	・物語が自分に最も強く語りかけていることを読み取るようにするために、人物の心情の変化とその理由を考えながら読み取ることができるよう指導する。 ・目的に応じて必要な情報を捉え、文章全体を概観して効果的に読むために、事実と意見との関係に注意しながら読み取り、文章に対する自分の考えを持つことができるよう指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○調査のたいししょうの下線部を漢字で書く問題の本校正答率は46.0%であり、全国の平均との比較で4.1ポイント、県の平均との比較では3.0ポイント高い。 ●文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く問題の本校正答率は40.0%であり、全国の平均との比較で7.8ポイント、県の平均との比較では4.7ポイント低い。	・文中の主語と述語との関係に注意し、接続語を使って文と文を適切に結ぶことができるように指導する。 ・三字以上の熟語の構成や日常生活において使われている慣用語の意味を理解し、使えるよう指導する。 ・相手や場面に応じて使う言葉が変わることを理解させ、適切な敬語を使えるように指導する。

宇都宮市立上河内中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	62.6	62.7	63.2
	量と測定	46.7	52.9	52.9
	図形	76.0	77.3	76.7
	数量関係	65.1	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	60.5	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	71.5	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	71.0	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○示された除法の式の意味を理解する問題の正答率は、52%であり、全国の平均との比較で5ポイント、市の平均との比較で9.8ポイント高い。 ●棒グラフから何倍か読み取る問題の正答率は、70%であり、全国の平均との比較で8.6ポイント、市の平均との比較で6.1ポイント低い。	・加法と乗法などが混合した小数と整数の計算の正答率が低い。基本的な計算の定着に向けて、毎日の宿題や朝の学習等で練習を重ね、習熟を図る。
量と測定	●量と測定の領域の正答率は46.7%であり、全国・市との平均との比較で6.2ポイント低い。	・量と測定の領域では、記述式の回答が多く、記述式の正答率が低い。普段の授業から自分の考えを表現する活動を大切に指導していきたい。 ・正しく図表から情報を得られるように、問題解決に必要な情報はどれかを考える活動を継続的に取り入れ、情報の見つけ方が身に付くようにする。 ・記述する際には、式や計算など数学的根拠を基にした説明が行えるように指導を行う。
図形	○図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成することができるかという問題の正答率は、62%であり、全国の平均との比較で1.7ポイント高い。 ●台形について理解をしている問題の正答率は、90%と全国の平均との比較で3.1ポイント、市との平均で2.2ポイント低い。	・図形の学習をする際は、既習内容を復習し、図形の一つ一つの特徴や性質について整理して、定着を図る。また、具体物を用意し、児童一人一人が操作しながら理解が深まるように指導する。
数量関係	○棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る問題の正答率は、98%であり、全国の平均との比較で2.8ポイント、市の平均との比較で1.7ポイント高い。 ●単位量当たりの大きさを基に、求め方や答えを記述する問題の正答率は、54%であり、全国の平均との比較で8.6ポイント、市の平均との比較で8.4ポイント低い。	・数量関係の問題の中で、特に単位量当たりを尋ねる問題で正答率が低い。毎日の宿題や朝の学習等で練習を重ね、習熟を図る。

宇都宮市立上河内中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定的な回答は88%。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」に対する肯定的な回答は96%となり、県・全国平均を上回った。これは、登下校や縦割班での活動、委員会等、児童が様々な場面で役割を任せられる機会が多いとともに、児童が責任をもってそれらの活動に取り組んでおり、協調性や自己肯定感が高められているからであると考えられる。今後も、最後まで互いに協力しながら活動し、喜びを味わったり達成感を高めたりできるような機会を増やすとともに、児童の活動の様子を教職員間で共有したり、学校全体や地域にも発信したりしていくことで、児童の頑張りが認められる機会を増やしていく。

○「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」に対する肯定的な回答は76%。「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか」に対する肯定的な回答は88%となり、県・全国平均を5ポイント以上上回った。また、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか」に対する肯定的な回答は86%となり、県・全国平均を10ポイント以上上回った。これは、テーマについて、自主的に情報収集やまとめを行い、プレゼンテーションを行う活動を多く取り入れていることで、外国への興味が高まっているからであると考えられる。

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」に対する肯定的な回答は88%となり、県・全国平均を66.1ポイント上回った。さらに、「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力するべきことを決めて取り組んでいると思いますか」に対する肯定的な回答は90%となり、県・全国平均を10ポイント以上上回っている。これは、各教科においてペアやグループでの話し合い活動を積極的に取り入れ、自分の考えを表現したり深めたりする経験を多くしてきたことで、主体的な話し合い活動をする力が高まりつつあるからであると考えられる。

○「算数の問題の解き方がわからないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか」に対する肯定的な回答は92%、「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」に対する肯定的な回答は90%となり、どちらも県・全国平均を5ポイント以上上回った。

●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」に対して、2時間以上と回答したのは0%、読書を全くしないと回答した児童は38%で、県平均の17.3%と比べると、高い値を示している。さらに、「読書は好きですか」に対する肯定的な回答は62%となり、県・全国平均を14%下回った。テレビやスマートフォンなどの様々な情報メディアの発達・普及による、児童の読書離れが考えられる。読書集会や読み聞かせなどを通して、読書の楽しさを知るきっかけを作り、児童の自主的な読書活動を継続的に指導していく。

宇都宮市立上河内中央小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「主体的・対話的で深い学びに向かう児童の育成」の研究の充実	話し合い・教え合いを通して、思考の筋道をたどりながら、考えを深めることができるような指導の工夫を図る。 授業の中で、「上央小 授業スタンダード」や「学習のきまり」を実行し、はっきり・じっくり・すっきりした授業を展開し、児童の学習の定着を図る。 特に、板書計画を充実させ、授業のねらい、まとめを明確にするとともに、振り返りの時間を確保し、学習の充実を図る。	「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」では、肯定割合が84%で、話し合いを通して学びを深めるスキルが身に付きつつあることがうかがえる。しかし、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」の肯定割合は70%とやや低かった。
基礎・基本の確実な習得	基礎・基本的な内容を意図的に繰り返し学習したり、家庭学習の習慣化を図ったりしている。 また、朝の学習時間を活用し、担任以外の先生たちによる学習の個別指導を行ったり、とちぎっ子の結果から、「今年度中に復習するところ」を洗い出し、復習をしたりしている。	国語の「話す・聞く」や算数の「数と計算」や「数量や図形についての知識・理解」がよく身に付いているなど、繰り返し学習の成果が見られ、正答率が県・国よりやや高かった。 しかし、国語の「言語のついで」の知識・理解・技能、算数の「量と測定」や「記述」して解答することなどが不十分であった。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	「家庭学習のすすめ」を作成し、全家庭に配付するとともに、児童には家庭学習の取り組み方の指導をする。また、「家庭学習チャレンジ週間」の実施により、家庭学習への意欲向上や生活リズムの見直しを行うとともに、学期ごとの「家庭学習名人表彰」等を行い、宿題や自主学習に前向きに取り組めるよう図る。	「1日当たりどれくらいの時間、勉強しているか」では、「1時間以上取り組んでいる」が60%で県より10%以上低い。しかし、「家で自分で計画を立てて勉強している」は78%でやや高かった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

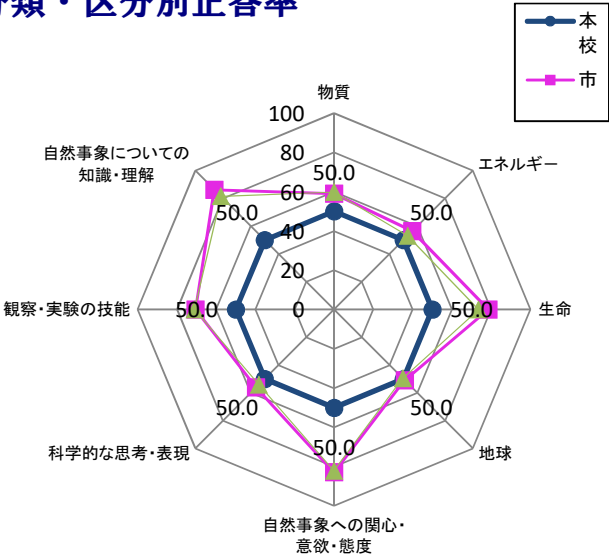
調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「話す・聞く」が6年生以外では低い。	朝の学習の中で、「書く」だけでなく「聞く」力を高める時間も確保する。	「書く」だけでなく「聞く」力を高める時間も確保し、「聞くこと」についてスキルの繰り返し学習を行う。

宇都宮市立〇〇〇小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物質	50.0	59.0	59.8
	エネルギー	50.0	56.4	53.1
	生命	50.0	78.6	73.6
	地球	50.0	50.9	49.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	50.0	82.9	82.1
	科学的な思考・表現	50.0	56.1	54.1
	観察・実験の技能	50.0	70.6	71.1
	自然事象についての知識・理解	50.0	86.2	81.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質	○ ●	
エネルギー		
生命		
地球		